

現地視察位置図①

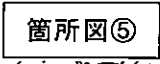
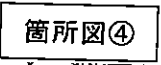
箇所図①

箇所図②

箇所図③



現地視察位置図②



箇所図①

所在地	地番	林小班	面積	備考
大正町	420-1	2-39	0.12	カラマツ 2年生

○特定施業森林

(土保)

北海道庁作成のデータにより印刷

箇所図②

所在地	地番	林小班	面積	備考
昭和町	458-1	13-82	0.97	カラマツ 3年生

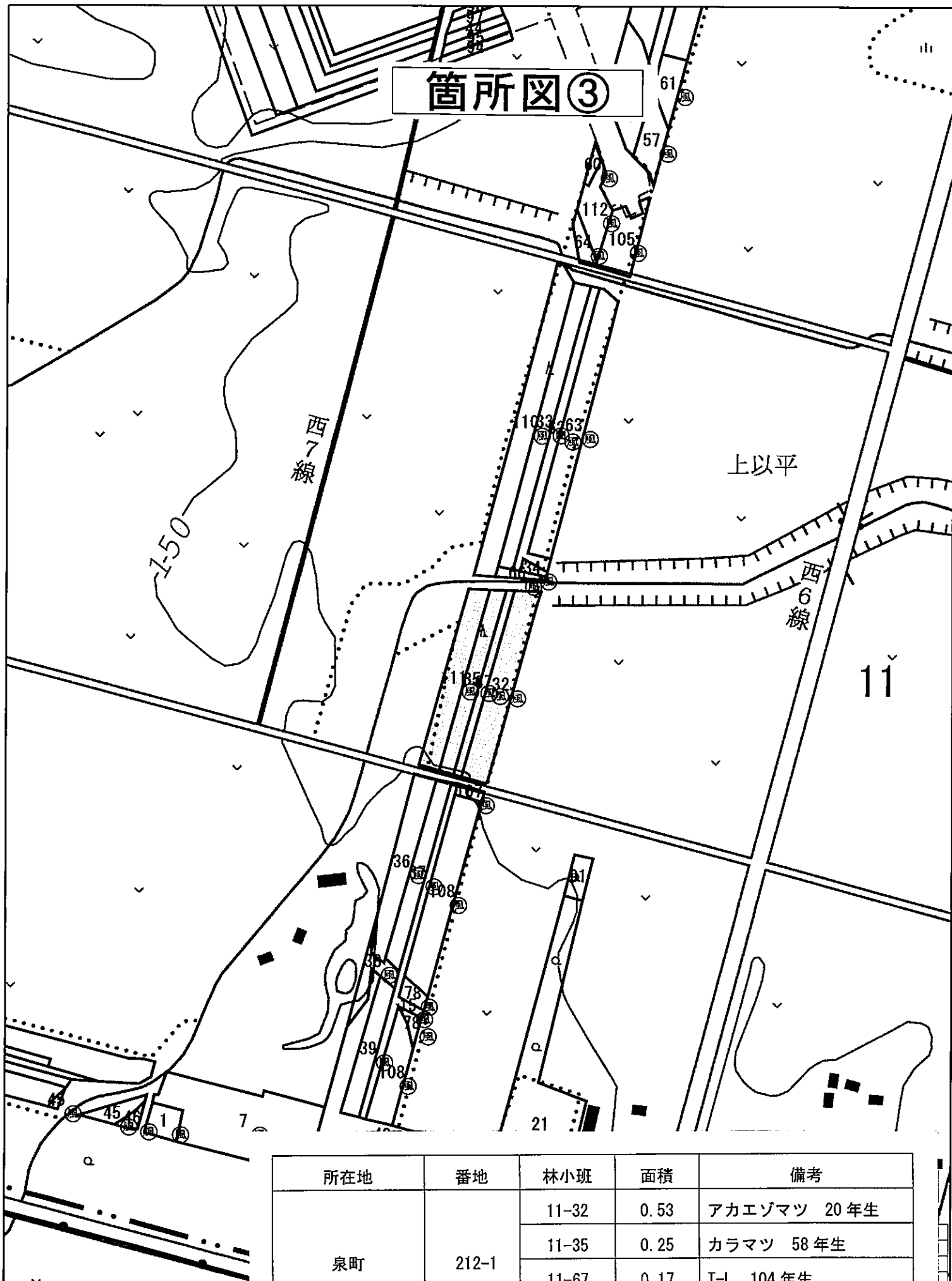
○特定施業森林

(土保)

印刷日 12024年1月29日

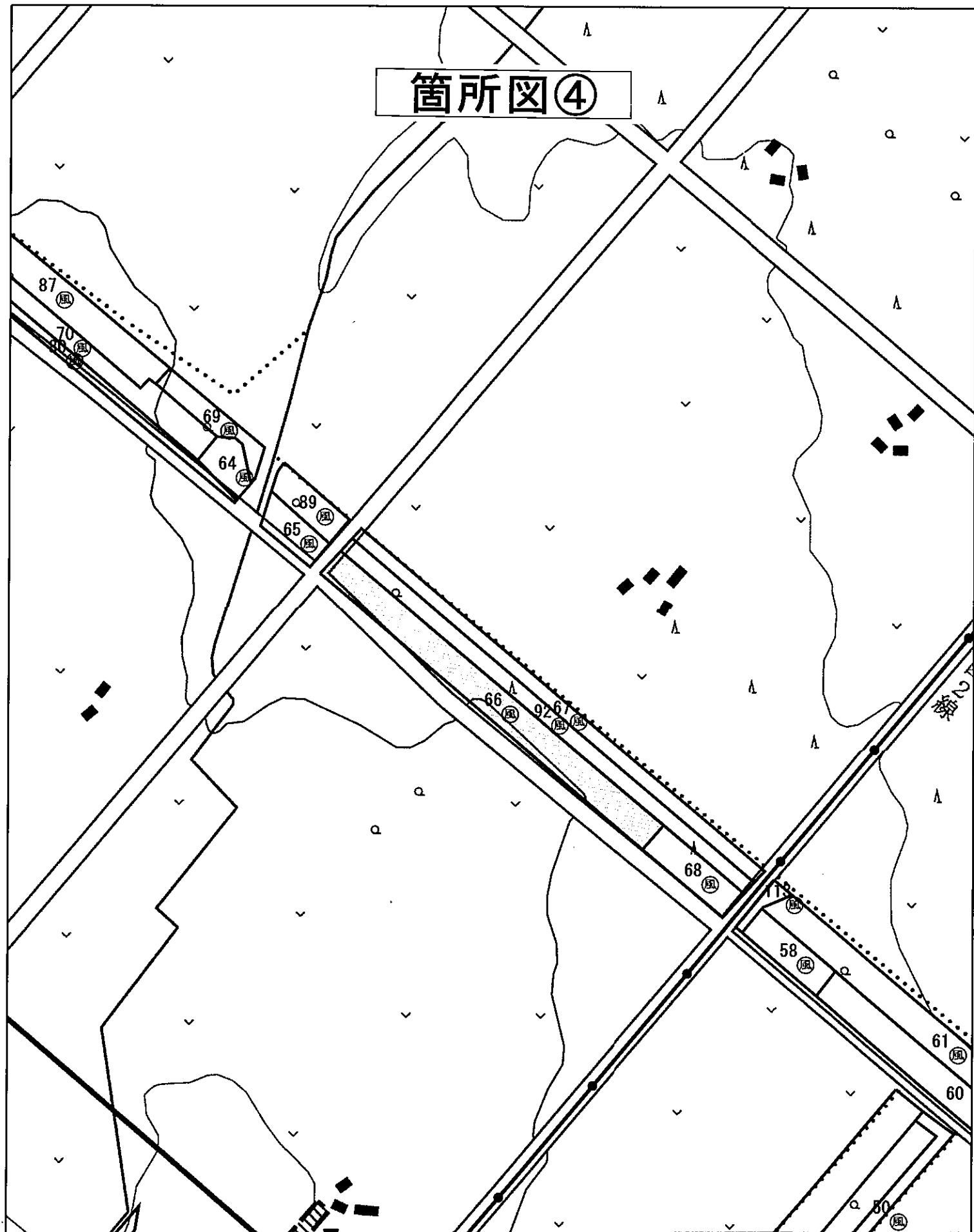
北海道作成のデータにより印刷

箇所図③



所在地	番地	林小班	面積	備考
泉町	212-1	11-32	0.53	アカエゾマツ 20年生
		11-35	0.25	カラマツ 58年生
		11-67	0.17	T-L 104年生
		11-111	0.43	カラマツ 9年生

箇所図④



所在地	番地	林小班	面積	備考
広野町	246-1	39-66	1.44	カラマツ 27 年生

○特定施業森林

(土保)

北海道作成のデータにより印刷

箇所図⑤

38

83

88

89

85

84

104

87

83

105

86

6

91

92

93

106

86

95

所在地	番地	林小班	面積	備考
八千代町	255-1	38-86	3.56	カラマツ 55年生

箇所図⑥

44

新

77

62

49

42号

70

68

65

69

所在地	番地	林小班	面積	備考
太平町	884-1	44-77	074	カラマツ 1年生
		44-新	1.00	クリーンラート 1年生

○特定産果森林

(土保)

.....

北海道作成のデータにより印刷

簿
查
調
林
森

計画区 13 十勝 地域 14 十勝 市町村 20 帯広市 1頁/1頁 出力年月日 2024年7月25日

[illegible]

【R05確定版】成長後

所有権・所有界・面積等に関する諸権利及び立木の評価の証明には使用できません

77142003

MASTER0101

2-39 2年生



2-39 2年生



13-82 3年生



13-82 3年生



11-111 9 年生



11-111 9 年生



11-32 20年生
アカエゾマツ



11-67 104年生
天然林



11-111 9年生



39-66 27年生



39-66 27年生



38-86 55年生



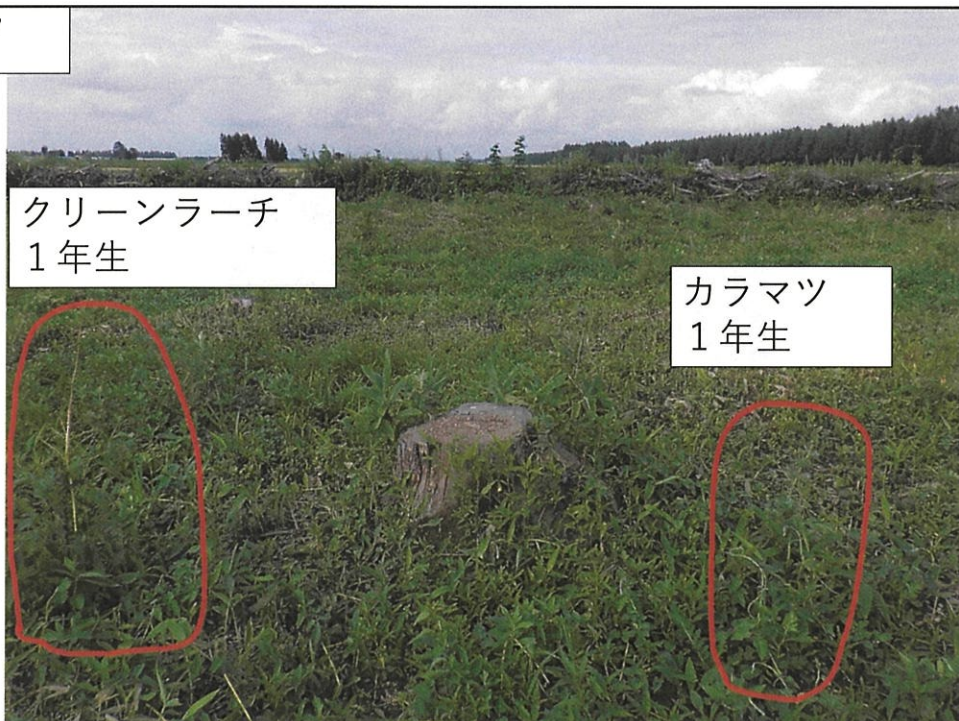
38-86 55年生



44-77

クリーンラーチ
1年生

カラマツ
1年生



クリーンラーチ
1年生



カラムツ
1年生



帯広市森林施業計画(第13次市有林施業概要)より抜粋

4 市有林の施業方針

(2) 更新樹種の選定

気候、地形、土壌等の自然条件への適応、樹種の特質、既往の成林状況などを考慮し、適地適木を基本として選定します。地域の自然林を構成する樹種や炭素固定能の高いクリーンラーチ等を積極的に植栽します。

加えて、平野部の防風保安林については、地域の方々の意見も伺いながら、隣接地の利用状況にも考慮した樹種選定に努めます。

(3) 伐採の基準とする林齢

立木の伐採にあたっては、帯広市森林整備計画に定める標準伐期齢を参考として次表のとおりとします。

(4) 長伐期施業を実施する森林

① 長伐期施業の推進

山地災害防止林および生活環境保全林については、森林機能の保全や人工林資源の循環利用を維持し、伐採に伴って発生する裸地の縮小および分散を図るため、主伐の時期を標準伐期齢の概ね2倍とします。

② 主伐可能な林齢

長伐期施業における伐採にあたっては、帯広市森林整備計画に定める実施基準を参考として次表のとおりとします。

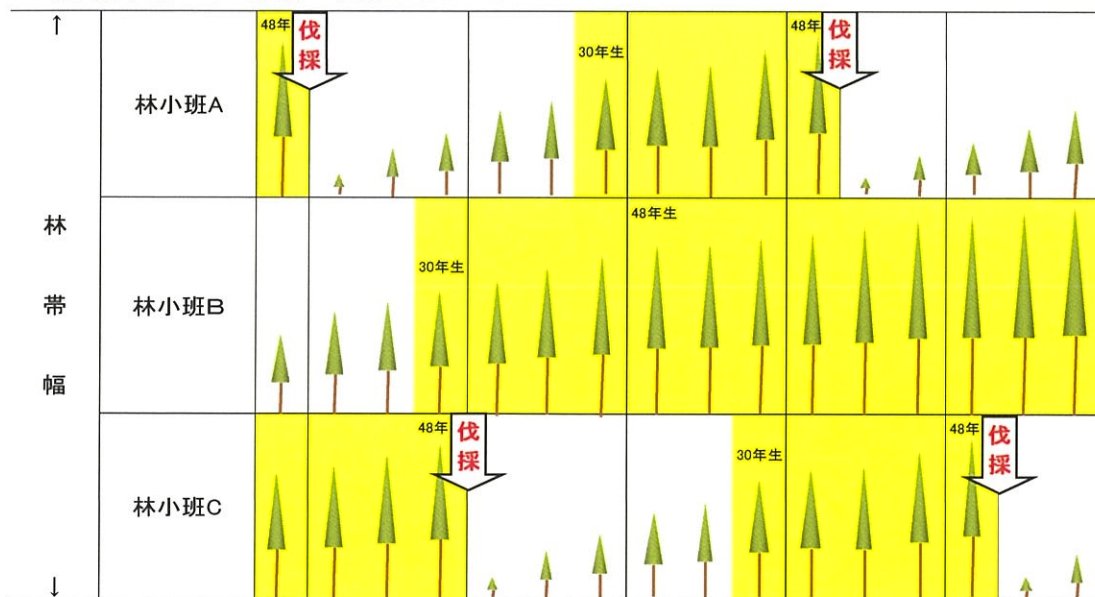
【標準伐期齢・長伐期施業における主伐可能な林齢】

樹 種		標準伐期齢	主伐可能な林齢
人工林	エゾマツ・アカエゾマツ	60年	96年以上
	トドマツ	40年	64年以上
	カラマツ（グイマツとの交配種を含む）	30年	48年以上
	その他針葉樹	40年	64年以上
	カンバ・ドロノキ・ハンノキ(天然林を含む)	30年	48年以上
	その他広葉樹	40年	64年以上
天然林	主として天然下種によって生立する針葉樹	60年	96年以上
	主として天然下種によって生立する広葉樹	80年	128年以上
	主としてぼう芽によって生立する広葉樹	25年	-

(5) 主伐に際しての留意事項

防風保安林については、防風機能を維持するため、標準伐期に達している森林を幅20m以上残すことに留意し、皆伐施業や植栽樹種の選定について本計画の定めに従い、円滑な更新を可能とする施業を行います。

防風保安林による伐採・造林のイメージ



※林小班Bの林帯幅を20m以上確保する。
黄色：防風機能を持つ林帯
年数：1マス15年

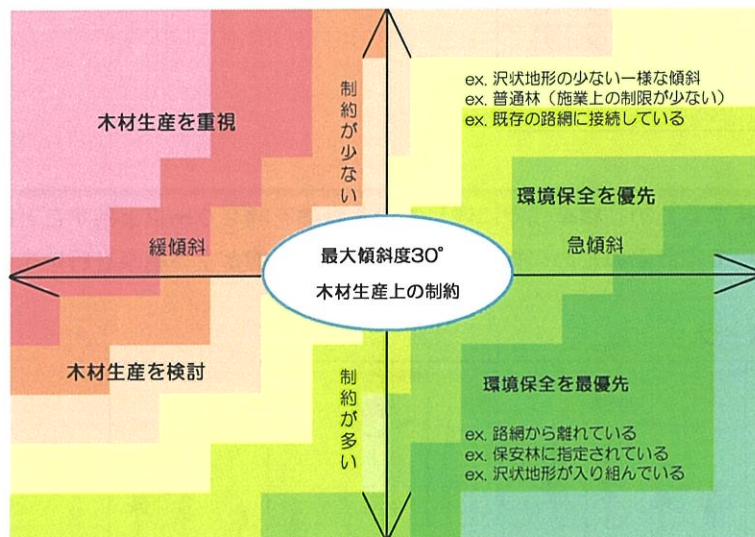
林小班Cで防風機能を維持しているの
で、林小班Aを伐採→造林。

耕作地と隣接する林小班A・Cは交互に伐採と造林を繰り返し、林小班Bは防風帯として、かつ、生物多様性などの公益的機能を長期的に維持していく。
実際の伐採時期については、樹勢や人工林としての管理状況を考慮し、適切に判断していく。

山岳地における伐採ガイドライン

	現状	森林施業の方針
木材生産を重視	人工林	- 路網整備などの基盤整備を進め、低コストの木材生産と更新により、生産性の高い森林経営を実施する。 - 計画的な搬出間伐を繰り返し、市有林全体の齢級構成の平準化を考慮しながら、標準伐期齢に達した林分は皆伐を実施する。
	天然広葉樹が侵入し高木層に達している人工林	- 広葉樹の侵入程度により、針葉樹単層林の維持または針広混交林化を図る。 - 沢状地形に侵入している広葉樹は保残し、針広混交林化または広葉樹林化を図る。 - 主伐は、沢状地形部分は保残しながら、皆伐範囲を決定する。
	天然林および広葉樹が林冠を占有している人工林	広葉樹林としての成林を優先し、原則として皆伐は行わず、必要に応じて間伐・択伐を実施する。
環境保全を優先	人工林	- 保安林の指定施業要件や森林整備計画で定められている施業の方法を遵守し、公益的機能の発揮を優先する。 - 適切な密度を維持するために林況に応じた間伐を実施し、主伐に際しては、地形等に配慮して皆伐範囲を決定する。
	天然広葉樹が侵入し高木層に達している人工林	- 森林環境の維持を優先し、針広混交林化または広葉樹林化を図るため、侵入木も生かしながら間伐を実施する。 - 主伐は、路網との接続や地形等を考慮し、広葉樹が林冠を占有している部分は保残し、針葉樹の多い部分のみ皆伐する。
	天然林	公益的機能の発揮を最優先事項とし、基本的には手を加えず、自然の力に任せて現状を維持していく。

山岳地において伐採を計画する際の配慮事項イメージ



※ 緩傾斜で制約が少なければ少ないほど木材生産を重視し、積極的に間伐・皆伐を行っていく。
急傾斜地で沢状地形が入り組み既存の路網からも距離があるような場合は、森林環境の保全を優先し、必要な保育作業のみ実施していく。